

共に学び 共に伸びる  
先祖の知恵を受け継ぐ大城小学校



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
和泊町立 大城小学校	大城小学校運営協議会 令和2年10月1日 設置	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 1名 1名	大城小学校地域学校協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

人口減少・児童数の減少、高齢化等により、伝統芸能の継承や校区内の農業の衰退等が進む中で、子どもたちが郷土に誇りをもつための体験活動を通じた青少年の健全育成の実施が難しくなってきた。このような課題を解決するために、学校運営協議会と大城小もりあげ隊(準PTA会員)が共に協力して、共に学び、共に伸びる、先人の知恵を受け継ぐ多様な活動を展開することにより、学校を核とした地域づくりを進める。

目標や目指す姿(学校)

子どもたちが郷土に誇りをもつ学校

目標や目指す姿(地域)

学校を核とした地域作り



大城小学校運営協議会

の特徴

委員の立場や属性等

- 保護者代表
- 民生委員
- 字区長
- 地域有識者
- 大城小もりあげ隊事務局員
- 女性代表
- 校長・教頭
- など、計 **10** 名で構成
- 年間平均 **3** 回程度開催

効果的な運営の工夫

準PTA会員(地域に居住している住民等)で組織された大城小もりあげ隊の事務局が地域コーディネーターとなり、学校運営協議会委員として出席することによって、学校・地域ニーズを把握し、多様な活動に対する活動メンバーの調整等を行っている。  
会議資料は、事前に配布し、限られた会議の時間を有効活用している。  
第1回の会議において年間スケジュールを確認し、年間の取組について見通しをもって連携が図られるようにしている。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

子どもたちが郷土に誇りをもてるよう、学校を核とした地域作りを進めるための協議を行い、大城小もりあげ隊とともに、先人の知恵を受け継ぐ多様な活動へ結びつけている。  
さらに、児童数減少への対策も、様々な立場から意見や知恵を出し合い、具体的な活動を大城小もりあげ隊がサポートして実施している。



熟議している様子

地域学校協働活動

学校運営協議会の協議をもとに、学校と地域が共通の目標をもち、大城小もりあげ隊が中心となり、会員の調整を図り、総合的な学習の時間や生活科、特別活動等を活用して、踊り、三味線の指導、米作り、サトウキビ栽培、収穫したサトウキビを使って黒砂糖作りを行っている。



黒糖作り

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

大城小もりあげ隊事務局代表が、地域コーディネーターと学校運営協議会委員を兼ね、学校と地域、大城小もりあげ隊会員との連絡・調整、情報の共有を行うことによって、多様な活動がスムーズに実施できている。また、学校運営協議会では、年間スケジュールを確認し、学校と地域が見通しをもって活動できるようにしている。さらに、大城小もりあげ隊は、協力できる内容を事前に登録することによって、学校や地域のニーズに応えられるよう工夫している。

取組

成果・効果

	H7	R3
児童数	92	43
準PTA会員数	50	174

大城小学校では、平成7年に児童数減少に伴うPTA戸数の減少により、PTA会員の負担増加や活動のマンネリ化を招くことが危惧されていた。今後も児童数減少が予想されるため、PTA活動の見直しと活性化の必要性に迫られ、地域を巻き込んだ活動として、準PTA制度を開始した。  
令和2年度に学校運営協議会を設置するにあたり、準PTA制度を大城小もりあげ隊として組み込み、さらに多くの地域住民の協力を得て、「共に学び、共に伸びる、先祖の知恵を受け継ぐ大城小学校」として、学校を核とした地域づくりへと発展させた。

令和3年度は、児童数43名に対して、大城小もりあげ隊174名の会員が登録し、伝統芸能の指導、米作り、黒糖づくり、学校行事への参加、登下校時の見守り活動、環境整備等の学校における多様な活動や児童数減少に対する対策としてポスターを作成したり、住宅(空き家)を確保したりする地域の活動を展開している。  
このような活動を実施することで、子どもたちは、郷土の良さを知り、郷土に誇りをもつようになり、地域住民は、子どもたちと関わることで生きがいを感じるようになってきた。今後も、「共に学び、共に伸びる、先祖の知恵を受け継ぐ大城小学校」の取組を継続し、学校を核とした地域作りを進めていきたい。